

発達障がい児の支援に関する要望・意見

① 情報提供に関するもの

3歳児健診で「気になる子」支援が必要と思われる子の情報を入園前に知りたい。

個人情報のため、小学校へ伝達できない。

個人情報の問題があり、他機関への相談も難しい面がある。

少し遅れがあると思われる子に対して、巡回し、有る程度の診断がもらえるとありがたい。小学校との連携が「保育所児童保育要録」だけであり、発達障害児の入学に関しては面談する機会があるとい

い。

② 財政的援助(人員・環境など)に関するもの

環境整備がされていない中での受け入れは困難を来し、こどもにも負担がある。エアコンの整備、クールダウンの部屋、統合保育をしていく上で適正な人数はい部が保てない。

子どもは集団の中で育つべきであるが、教員の配置、保護者の対応等課題が多く対応しきれない現状。

公立保育園同様の補助体制を望む。

個別支援が必要となる場面が多いため、人手がほしい。

保育士加配に対する援助が少なく、現場の保育士のがんばりによるところが大きい。保護者の理解が得られなくても医師による承認等で援助が得られるようにしてほしい。

公立並みの加配、親への支援、学びの場、交流の場、それを知らせ方法の検討。

私立保育園、公私立幼稚園も障害児の受入ができるように保育士等の加配が必要。

一人の子を生涯支援していく体制は不十分。障害のあるなしに関わらず等しくすべての人が豊かな社会生活が送れる環境が整えられることを願っている。

発達障害児にとって保育園の集団保育が有効と書いていても、現実的には対応する保育士が少なく、受け入れに悩む。

支援員の日数を年間保育日数分つけてほしい。支援員の十分な加配を希望。

支援の必要な子を支えるのはマッパワ-、人的配置を強化してほしい。

人的加配。
すべての機関の相談員を正規職員にしてほしい。支援を必要とする子どもを含めた集団がよりよい生活ができるように支援、加配、環境整備が大切。
環境整備がされていない中での受け入れは困難を来し、こどもにも負担がある。エアコンの整備、クールダウンの部屋、統合保育をしていく上で適正な人数はい部が保てない。
発達障害、気になる子には丁寧な対応・支援が必要。職員加配の措置、すぐ相談できる専門家が常時いるといい。
健常児とともに育つためにも入園希望に添いたいが、配置職員数がたりないため、受け入れができない。
③ 支援方法に関するもの
発達障害児のボ－ダ－ラインがわからないため、支援するのが難しい。
園における丁寧な対応ができない。専門知識を持った支援員が必要。
発達障害と認められる園児がいないため、学習が遅れている。
どのような支援をしていったらよいか、専門機関からの情報提供をしてほしい。
どこにいてもその子にあった支援ができることが望ましい。
発達障害児は見た目ではわかりやすく、時間がかかる。「違い」を保護者が受け止めるまで時間がかかること。園全体で子・親をフォローするための園内会議を大切にしたい。
④ 相談機関の周知に関するもの
相談機関の所在地、利用金体系のわかるものがほしい。
どこの支援機関に紹介、相談にのってもらうか判断が難しい。
保護者がもっと気軽に訪れることができる支援機関のリスト・パンフレットの作成、広報。
保護者対応が保育士任せになるのは荷が重い。外部機関を積極的に利用できるようにしてほしい。

⑤ 専門機関との連携に関するもの

専門機関の定期的な巡回。

きらりの支援サポート強化事業、年間通して定期的に巡回、園内のチーム保育に結びつけることができ、有効。継続してほしい。

きらりによる障害事例・対処方法の講演会、保育士の悩み相談等を年2～3回行ってほしい。

幼児期の支援はとても大切。支援についてはすぐ対応できるよう機動性のあるものを望む。

発達障害なのか、育ちの過程の行動なのか判断が難しい。気になる子を指定園に連れて行くのではなく、希望する園には巡回してほしい。

3歳児検診以降、就学までに障害が現れやすい。何らかの形で専門機関と連携がとれるとよい。

グレーゾーンの子について医師等による巡回訪問が定期的にあると相談しやすい。

子どもの様子を見て諸機関へつなげ、アドバイスをもらえるように巡回訪問をしてほしい。

「きらり」のようなセクターが葬区にもほしい。遠いため、行かない、行けない人もいる。親も子も理解されないことで悩むケースが多く、広く知ってもらうことも大切。

山間地のため、市街地のサポート機関とつながりやすい体制は整えてほしい。

言葉の教室での指導が効果をあげている。今後も対応の幅を広げてもらいたい。

地域に開かれた幼稚園推進事業で未就園児の会を行っている。支援センター職員がその日に来て、保護者の相談やアドバイスをしていただきたい。

保健福祉セクターの3歳児検診を充実させ、窓口となって連携がとれる体制。

研修参加やきらり訪問などが参考となり、保育の糧。

⑥ 「いこいの家」や「療育施設」の建設に関するもの

健常児と障害児の統合保育の中でお互いの成長を保証していきたい。保育園以外に乳幼児の発達障害児の受入機関が少なく、多くの子どもを受け入れざるを得ない状況。指定園を中心に統合保育が成り立たない、療育も十分できない。乳児を含めた発達障害児のデイサービスセンターの設置を希望。

障害児の通園施設が少ないため、協力体制の基盤が作りにくい。子どもたちがより生活しやすくなるために施設・人材の確保が大切。

<p>いこいの家のような施設を増やしてほしい。幼稚園・私立保育園でも受けてほしい。保育園に通うために仕事をわざわざ見つけ入園させるケースもある。</p>
<p>清水区にも「いこいの家」のような施設がほしい。保育園はパンク状態。</p>
<p>受け入れ施設、医療機関、保健福祉セクター健診システムを見直し、早期発見・早期療育が必要。</p>
<p>早期発見・早期治療ができる相談機関の充実・連携体制。</p>
<p>いこいの家のような通園施設が各区にほしい。個別支援の必要な子どもたちに十分な療育・保育がされてないと思う。</p>
<p>清水区に早期に単独通園施設の設置を希望。(保育園との交流が持てるよう保育園と併設、うみのこせつ、幼児言語教室の利用者が多く、継続的な指導・相談が受けにくい、これらを考慮した多機能な支援体制)</p>
<p>公立保育園において障害児の受入は3歳以上児、3歳未満児の受入施設「いこいの家」のような充実・整備。</p>
<p>いこいの家のように施設をもっとほしい。支援を必要とする子どもが増えている中、保育園だけでは受け入れられず、行き場のない子が出てきている。相談・診断・療育・通園が行える複合施設があれば、保護者も気軽に利用できる。就労要件に関係のない親もいるので、幼稚園での受け入れも増やしていくべき。</p>
<p>いこいの家相当施設を清水区にも望む。</p>
<p>障害児通所施設が少ないために、集団保育が可能でない子も保育園に入園せざるを得ない。適切な支援ができる通所施設の設置。</p>
<p>気になる子について専門的な立場で相談を受けられる場所、地域の小学校に通える体制、乳幼児から大人までトータルで支援できるシステムが確立されるといい。</p>
<p>療育施設の拡充。</p>
<p>いこいの家のような通園施設の増。</p>
<p>いこいの家、保育園以外にも受け皿が必要。</p>
<p>⑦ 保護者支援に関するもの</p>
<p>保護者の子どもへの理解、子育ての不安をサポートしたいが、保護者、家族の理解を得るのが難しい。</p>
<p>障害児かどうかわからない子への対応に苦慮、保護者へのアドバイスをどうしたらよいか困るときがある。</p>

親の障害受容、園の職員不足、他の子どもたちへの指導に影響、早期に専門機関の不足等課題は多い。

保護者からの相談が自発的なものでない限り1度限りになり、その後につながらない。障害児の支援は保護者とどう向き合うかが第一。

入園受付の際、教育相談窓口を開いてもなかなか来ない。3歳児検診の際にも心配な子は園に相談するように伝えてほしい。

発達障害については、保護者認識に開きが大きい。過剰と過小、協力を得にくい。

保護者の理解、了承がないと他機関との連携は難しい。個人情報からみもあり、職員の共通理解も必要。

支援機関の職員数が足りない、保護者の障害理解がないため、話を進めにくい。

早期に対応してもらえる機関があるといい。3歳児健診をもっと重視する。気になる子の早期発見→保護者へ伝える。これが入園する際に役立つと思う。

保護者が認め、診断書提出がない限り教員増員はできない。診断書の有無にかかわらず補助金がほしい。幼稚園は障害のレッテルをはるためでなく、保護者との信頼関係を築きながら、支援の必要な子が楽し過ごせることを前提としているため、保護者理解、専門機関へのつなげに時間がかかる。

保護者は積極的に相談できる第三者がほしいと思う。子育て相談のように話を聞く場、遊びに来る場があればいいと思う。

すすすくファイルの記入方法について保護者に説明する機会を設けてほしい。園からの説明では不十分、説得に欠ける。

3歳児検診時にはもう少しそれらしい話をしてほしい。入園してから保護者が反発するケースがある。支援機関の紹介、いろいろな機関との連携方法を知りたい。

⑧ その他

3～9歳くらいまで定期的・継続的な支援。

保育者の勉強不足から小学校で学習障害と言われ、幼児期に受け持ちから聞いていたらと親から言われたという話を聞いた。早期支援の必要性を痛感。

3歳未満児の公立での受け入れ体制を整えてほしい。私立も医師に訪問してもらいたい。

障害児手当の充実。

保育園から支援学校へパトタッチした子が明るく成長している姿がうれしい。

保育園は働く両親がほとんど。土日も相談支援を行う機関があれば、もっと利用しやすくなる。

発達障害が毎年ふえつつある現状を解決できるように原因を見つけてほしい。

29

5歳児健診の実施、親・園・支援機関が同じ場で一緒に話し合う場の設置、支援機関や園以外の医師・特別支援学級教師の安易な言葉により支援の道がとざされてしまう。(大丈夫、発達検査はあてにならないなど)

保護者が発達障害に対して安心して向き合えるようになるための社会的理解、行政的援助。

交通教室、遠足、戸外活動の場所・場面で無知・無理解と思われる対応がある。

